



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

巻頭言 鹿児島県言語聴覚士会 発達部会部員 松永 宏行

今号目次

巻頭言	1ページ
新人紹介	2-3ページ
事務局通信	4-5ページ
地域局 学術局(成人) 社会局(公共 事業・保険) 連絡	6-7ページ
学術局(小児) 学術局(新人) 連絡	8-9ページ
学術局 (生涯学習)	10-11ページ
財務局 社会局(広報) 編集男紙	12-13ページ

日ごとに春めいてまいりましたが、皆様におかれましてはお元氣でご活躍のこととお喜び申し上げます。私は、鹿児島県言語聴覚士会発達部会部員の松永宏行と申します。

日本で新型コロナウイルス感染者が報告されてから1年以上が経過しましたが、未だに予断を許さない状態が続いています。新型コロナウイルス感染症に関するニュースや報道を聞かない日はなく、色々な心配や不安を感じている方も多いことと思います。一方、ワクチン接種に関する明るいニュース、オンライン化の普及など仕事や日常生活においても、コロナ禍だからこそ得たことも多かったように感じています。

大変な状況の中ではありますが、一日でも早く収束し、気兼ねなく仲間や友人とお洒落なお店でおいしいお酒を飲んだり集まったりできる日を楽しみに、感染予防と防止に努めながら、私にできることを続けていきたいと思っています。

さて、今回は2019年度より活動しております、鹿児島県言語聴覚士会発達部会の活動についてご紹介させていただきます。発達部会は、小児学術局理事1名と各地区部員6名の計7名で構成されており、会員の資質向上の為の研修立案、県内への広報及び会員や行政、理事相談窓口としての役割、更に若手STの育成、医療、福祉小児に関わる情報の発信、会員同士の情報交換や共有を図ることを目的に活動しています。

2019年度は、LINEグループを活用し、研修会の案内、書籍、参考書、論文などの紹介、また、会員間の情報共有等で利用して頂いております。2020年度においては、会員の皆様のご協力を頂き、小児言語聴覚療法についてのアンケートを実施させて頂きました。多くの回答を頂き、各施設の小児言語聴覚療法の受け入れ状況や受け入れの有無、紹介状の有無などをまとめました。詳しい内容について、県士会ホームページに掲載しておりますので、ぜひご活用、ご利用頂ければ幸いです。

発達障害、聴覚障害、重症心身障害児などを含む言語聴覚療法を必要とする対象児は多く、成人領域に比べアンケートの回答でもありましたが、対応できる病院、施設は多くはないのが現状としてあります。しかし、限られた病院、施設の中でも、県士会の強みでもある、組織率の高さを活かし、施設同士、会員同士の横の繋がりで私たちを必要としている対象児に支援や援助を届けられるよう、これからも発達部会では活動していきたいと思っておりますので、皆様のご協力の程宜しくお願い致します。

新人紹介

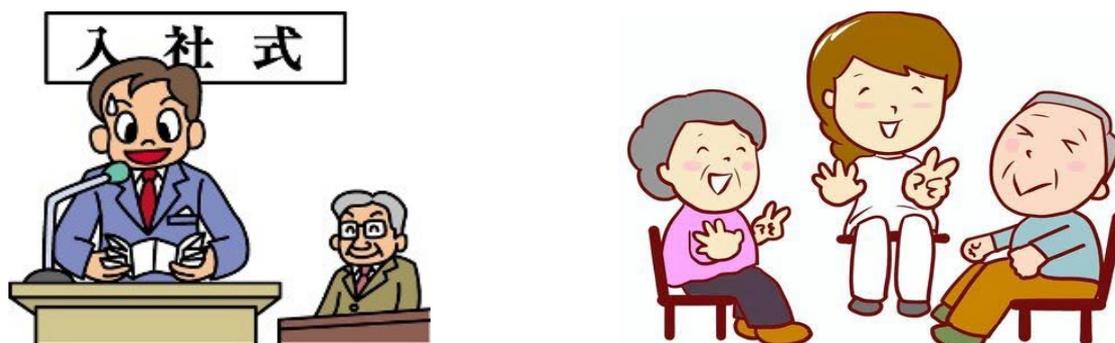
医療法人美崎会 国分中央病院

北園 和代

私は令和2年3月に第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在は霧島市にある「医療法人美崎会 国分中央病院」で言語聴覚士として勤務しています。当院は地域包括ケア病棟、療養病棟を有する慢性期病院です。またサービス付高齢者向け住宅と地域密着型特別養護老人ホームを併設しデイケアやショートステイ事業、訪問リハビリも行っております。入職当初は地域包括ケア病棟、療養病棟共に携わらせて頂きましたが、感染対策のため現在は療養病棟と訪問リハビリに携わらせて頂いております。

入職して約1年が経過し、病棟との連携に少しずつ慣れてきました。療養病棟の患者様は認知症や失語症などで意思疎通困難な方が多くリハビリテーション（以下リハビリ）についての説明をご家族様にさせて頂くことが多々あります。ご家族様へ患者様の状態とリハビリ内容について分かりやすくお伝えすることが難しく言葉選びに苦労しています。訓練立案からご家族対応で悩むことがありますが、多職種セラピストにも相談しやすい環境で、多くのアドバイスを頂きながら日々臨床に活かし患者様と関わっています。

4月から2年目となりますので、先ずは自分で考え疑問点をまとめた上で先輩セラピストの意見を取り入れた臨床ができるよう勉強していこうと思います。療養病棟は患者様とセラピストの関係が長期化しますので身体面だけでなく心理面もサポートできるような言語聴覚士を目指し日々努力していく所存です。



新人紹介

医療法人春風会 田上記念病院

永野 雅也

私は令和2年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、現在は医療法人春風会田上記念病院で言語聴覚士として勤務しています。当院は、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、リハビリテーション科、歯科があり、急性期治療を終えた患者様に良質な医療を提供することを目標とし回復期リハ病棟、医療療養病棟、地域包括ケア病床を運営しています。

入職した当初は、臨床場面で学生時代に学んだことだけでは対応できない場面が多く自分の知識不足に悩んでいました。現在も評価や訓練プログラムの立案で悩み、自分だけでは解決できない疑問点などがありますが、先輩方に助言を頂きながら良質なリハビリテーションを提供できるように努めています。

臨床現場で働く中で、特に多職種連携の重要性を感じる事が多いです。しかし、自分の知識不足もあり患者様の状態をST視点で正確に伝えることが難しく、実力不足を痛感しています。摂食機能療法において評価の難しさや、評価結果を踏まえた予後予測を医師や看護師に伝達する方法について日々悩んでいます。また、現在は新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐためご家族のカンファレンスへの参加を制限しています。患者様の状態をご家族に説明した経験がなく、今後わかりやすく説明できるか不安ではありますが、少しでもSTとして患者様の状態を正確に伝えることができるように自己研鑽に励んでいきたいと思ひます。

入職し1年が経とうとしています。この1年で患者様からたくさんのお話を学び経験させて頂きました。まだまだ未熟な言語聴覚士ですが、初心を忘れず患者様に質の高いリハビリテーションを提供できるように日々精進していきたいと思ひます。



事務局通信

県士会ニュース 事務局

9月（オンライン）

- ・オンライン講習会での全国協会員照会方法については、申し込みして頂く際に協会番号を提示（入力）して頂くこととした。
- ・小児学術アンケート結果の報告があった。
- ・第17回新人教育研修会および基礎講座の進捗状況について報告があった。
- ・今年度の言語聴覚の日イベント「ことばの相談会」中止に伴い、情報誌リビンダかごしまに広告を載せた。
- ・介護実習・普及センター関連研修会の講師担当について報告があった。
- ・各地区を超えた研修会（オンライン）の計画について報告があった。
- ・鹿児島市地域リハビリテーション活動支援事業について報告があった。
- ・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について報告があった。

10月（オンライン）

- ・オンライン会議システムZoomを契約することとした。
- ・第17回新人教育研修会および基礎講座の報告があった。
- ・令和2年度保険者機能強化支援事業における専門職アドバイザー養成研修について報告があった。
- ・全国協会の施設登録に関して進捗状況の報告があった。
- ・各地区を超えた研修会（オンライン）の計画について報告があった。
- ・鹿児島訪問リハビリテーション研究会の実務者研修会の予定について報告があった。
- ・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について報告があった。

11月（オンライン）

- ・指宿市役所健康福祉部健康増進課より発達相談会への講師派遣について菊野病院に依頼することとした。
- ・一社日本福祉用具供給協会鹿児島県ブロック（カクイックス）より快護生活フェスオンライン特別セミナー2021について後援することとした。
- ・選挙管理委員会を小原病院の田中氏を責任者とする事とした。
- ・鹿児島市教育委員会教育課および鹿児島市議と顔合わせについて報告があった。
- ・4月実施予定のポイント取得対象研修会計画の報告があった。
- ・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について報告があった。

12月（オンライン）

- ・鹿児島県口腔機能管理推進協議会出席者について検討された。
- ・介護認定審査会委員及び障害支援区分市町村審査会委員（奄美大島地区）について名瀬徳洲会病院の安田氏を推薦することとした。
- ・選挙管理委員会より役員選挙スケジュールの報告があった。

1月（オンライン）

- ・令和2年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会出席者について検討された。
- ・令和2年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業業務委託に係る関係書類について送付があり、手続きがすべて完了した旨の報告があった。
- ・第18回新人教育研修会および基礎講座の進捗状況について報告があった。
- ・4月実施予定のポイント取得対象研修会計画の報告があった。
- ・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について報告があった。

2月（オンライン）

- ・選挙管理委員会より役員立候補者について報告があり、加治木温泉病院の有川氏（理事）およびひさまつクリニックの濱崎氏（監事）を推薦することとした。
- ・次年度総会の計画が報告された。
- ・第18回新人教育研修会および基礎講座の進捗状況について報告があった。
- ・Web受講規定について検討された。
- ・4月実施予定のポイント取得対象研修会計画の報告があった。
- ・介護予防および地域リハに係る初期研修について検討された。
- ・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について報告があった。

令和3年2月理事会承認 総会員数515名（正会員514名，賛助会員1名）

一般社団法人 鹿児島言語聴覚士協会 事務局
松尾康弘

地域局(大隅地区担当)

最近は、春の暖かさが感じられる季節となってきましたが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。昨年の4月にそれぞれの職場に入職された新人のS Tの皆さんも1年が経ち、職場や業務に慣れてきたことと思います。

地域局では生涯学習プログラム症例検討会、地区ごとの勉強会や懇親会等の計画・運営を行っていますが、今年度は新型コロナウイルスの流行により全ての地区において会員の皆様と交流する機会が少なくなってしまった年でした。しかし、昨今はオンライン研修会が盛んに行われており、鹿児島県言語聴覚士会でもオンラインでの研修会が企画されています。また、ポイント取得対象症例検討会を北薩地区・大隅地区合同で令和3年4月24日に実施することになりました。オンラインでの開催にすることで、自分の所属する地区以外の症例検討会に参加できる良い機会になるのではと考えています。皆様の参加をお待ちしております。

今後も、県士会員皆様のご意見やご要望を県士会活動に反映できる様に努めて参りたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

恒心会おぐら病院 中野江美
TEL:0994-44-7171 FAX:0994-40-2300

学術局(成人)



平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき、誠にありがとうございます。成人学術局担当の加治佐彩です。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で研修会を執り行うことが出来ませんでした。会員の皆様には深くお詫び申し上げます。来年度は摂食嚥下障害についての講習会を行う予定となっており、新型コロナウイルス感染症の対策を考慮しながら準備を進めております。詳細が決まりしだい県士会ホームページやメールにて配信させていただきます。よろしくお願い致します。

サザン・リージョン病院 リハビリテーション部 坂口彩
TEL:0993-72-1351 FAX:0993-72-2128

社会局(公共事業・保険担当)

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、鹿児島県介護実習普及センター主催の介護研修会では、中止・延期する事がありました。7月以降は行政職員、参加者のご協力と感染症対策の徹底を図り、これまで計8回分の研修会（開催地：鹿児島市4回、鹿屋市1回、薩摩川内市1回、指宿市1回、宇検村1回）を無事に終了する事ができました。最前線で県民の健康福祉に貢献してくださっている医療従事者、介護従事者に心より敬意を表します。不安な日々を過ごされている皆さまにおかれましても、一日も早い事態の収束を心よりお祈り申し上げます。

令和3年度の介護報酬改定では、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」のポイントが挙げられています。言語聴覚士においては、介護老人保険施設のリハビリテーションマネジメント計画書情報加算と、医療院の理学療法、作業療法及び言語聴覚療法に係る加算が新設されております。いずれも医師・理学療法士・作業療法士等と協働し、リハビリテーション実施計画書を入居者又はその家族に説明し、継続的にリハビリテーションの質を管理している等の算定条件となっております。2024年度の診療報酬・介護報酬同時改定に向けて、他の医療機関等との連携、介護サービスとの連携・協働など取り組みが重要になると考えられます。

令和2年度診療報酬改定においては、「多職種チームによる摂食嚥下リハビリテーションの評価」や「呼吸器リハビリテーション料・難病患者リハビリテーション料の実施職種への言語聴覚士追加」、「言語聴覚療法のみ実施する場合についての脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)の要件見直し」が追加されました。

診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容の問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会に問い合わせてもらうこととなりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会に問い合わせさせていただきたいと考えております。

鹿児島県言語聴覚士会お問合せフォーム：<http://st-ba.net/contact/>



公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院
リハビリテーション科 樋渡 健太朗
TEL:099-226-9111 FAX:099-805-2509

学術局(小児)

○鹿児島県言語聴覚士会小児研修会&茶話会

去る令和3年2月28日に「鹿児島県言語聴覚士会小児研修会&茶話会」をZoom(オンライン)を用いて実施いたしました。研修会の講師はTASUC株式会社 たすく鹿児島教室 教室長の高尾希世美先生をお招きし「J☆skeys™とたすくの療育～コミュニケーションと家族との協働～」をテーマにお話しいただきました。

J☆skeys™という評価ツールに沿った機能的目標の設定やコミュニケーションツール活用、家庭との協働を中心に1年間の経過を動画で提示してくださり非常にわかりやすい研修会となりました。質問にも細かく答えていただき、STの専門性を高めていくためにも学びの継続や家族との協働は欠かせないです。

研修会後の茶話会は、7名に参加いただき2グループに分かれてそれぞれ自由にお話しいただきました。日々の臨床の話しから具体的な相談等もあり、ST間の密な交流の機会となりました。アンケートからもオンラインで継続して取り組んでほしいとの声もありました。コロナ禍で集合での研修会の開催が難しい中ですが、オンラインを活用しての交流の企画も進めていきたいと思っております。



茶話会後の集合写真

株式会社 L-はぴねす
学術局(小児) 西野 将太

Tel 099-811-2058 Fax 099-811-1058

学術局(新人教育)

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、新しい生活様式も日常となって参りました。各種研修会もWeb環境での開催が浸透してきましたね。

鹿児島県言語聴覚士会におきましても、9月26日に初めてのWeb環境での研修会を開催し、今までよりも多くの県外のSTの方にも参加していただくことができました。

3月20日には鹿児島医療技術専門学校の小牧祥太郎さんに講師をしていただき、第18回新人教育研修会を開催いたしました。「Dysarthriaをはかるー規・測・図・慮ー」をテーマに、Dysarthriaの基礎的な知識から、明日からでもすぐに臨床応用できるような動画を用いた手技の紹介など、ユーモアも交えながらご講演いただき、大変有意義な学びの場となりました。Webでの講義にも精通されている小牧さんならではの、その場でのアンケート実施・集計発表などわたしたち主催者にとっても今後の研修へ大変参考となる講義でした。

これまでは、県内の若手ST対象という色合いが濃かったと思いますが、今回も県外から5名の方が聴講してくださいました。Web環境での研修会が浸透した昨今、県外のSTの方々にも当士会の研修会に注目していただいていることを実感しております。

研修終了時にはアンケートも実施させていただきましたので、今後のWeb環境での研修会実施に活かしていきたいと思っております。

広く様々な環境のSTの方々に興味を持っていただけるような内容を、今後も企画していきたいと考えていますので、乞うご期待ください！！

米盛病院 石原 禎人

Tel 0992-30-0100 Fax 0992-30-0101



学術局(生涯学習)



生涯学習プログラムは、多様化するニーズに応えうる言語聴覚士を育成し、言語聴覚士としての資質向上と学習の継続と社会に対して言語聴覚士の質を保証することを目的とし、平成16年（2004年）度から日本言語聴覚士協会正会員を対象に開始された「基礎」と「専門」のプログラムです。

また、平成20年（2008年）度から「認定言語聴覚士」制度が開始され、両プログラムを終了し、かつ臨床経験6年目以上になると「認定言語聴覚士講習会」へ参加することができるようになります。

基礎プログラムは、言語聴覚士として実臨床に臨むにあたり最低限必要な倫理面、業務面、知識技術面、多職種連携面での能力を備えることを目標に、基礎的・共通な知識の学習と生涯学習の意義や方向性の理解を深め、臨床実践の基礎を学習します。

専門プログラムは、高い専門的臨床技能の維持、専門分野における職能的水準の引き上げ、学問的発展に寄与する臨床・研究能力を高めていくことを目標に、専門的な知識や最新の知見の動向、自らの専門性を高め自発的な学習の継続を促すための臨床研究の意義や方向性を学習します。

認定言語聴覚士は、高度な知識および熟練した技術を用いて高水準の業務を遂行できる言語聴覚士を養成することにより、業務の質の向上をはかり、社会に寄与することを目的として作られた資格です。

令和3年3月20日には、基礎講座5『協会の役割と機構』、基礎講座6『研究法序論』を日本言語聴覚士協会 理事でもある鹿児島医療技術専門学校 松尾 康弘 氏にご講義頂きました。また、令和2年度は複数の専門講座がWeb研修の形で開催されました。

日本言語聴覚士協会の会員データによると、年齢構成比は20代が全体の3割、30代が全体の約4割を占めており、子育て世代の割合が多いことが分かります。また、様々な理由から基礎・専門講座を受講する機会を逃してしまっていた方々もいらっしゃると思います。近年、コロナ渦の影響も加わりWeb形式の講義や研修会が事実上のスタンダードとなりつつあります。これまで会場での参加が難しいと感じていた方々は、この新しい時代の流れを好機と捉え、積極的にWeb研修会等へ参加してはいかがでしょうか？

「認定」資格を取得するメリットは？という議論がなされている場面にはしばしば遭遇します。「資格を取得すること」が目的ではなく、「何の（目的の）ために資格を取得する必要があるのか？」という視点が重要ではないでしょうか？職業人として学び続けるためには、何かしらの理由が必要かもしれません。

言語聴覚士の数は年々増加傾向にあり、社会に対して「言語聴覚士」としての質の担保が求められています。今後、協会が認定している資格を取得しているSTと、そうでないSTが実施した場合の診療報酬等に差が生じるような未来が来るかもしれません。また、資格が様々に活用され発展する可能性もあると思われます。

生涯学習プログラム制度が自分たちの職能の将来にとって重要な意味を持っていることをご理解ください。これから先の十数年は制度の移行期に伴う混乱や不都合が生じることも否定できません。しかし、会員である個々の言語聴覚士を支援するための制度であること、会員一人一人の主体的な取り組みと協力によって成立する制度であることをご理解頂けますと幸いです。

今後も鹿児島県言語聴覚士会の活動のみならず、日本言語聴覚士協会の動きに関心をもち、注目しておく必要があると思います。

学術局 生涯学習担当
鹿児島大学病院 小倉道広



財務局

会員各位

平素より県士会活動にご協力賜りありがとうございます。
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。
二年未納になりますと退会処分となりますので、ご注意下さい。

まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。

会費についてご不明な点がある方、口座登録用紙が必要な方は財務局メールアドレスまでご連絡ください。対応させていただきます。

財務局メールアドレス
kago_st@yahoo.co.jp



社会局(広報担当)

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、例年行なっていました、イオン鹿児島での「言語聴覚の日イベント」の実施を見送らせていただきました。

例年、9月1日の言語聴覚の日の付近で開催させていただいており、県民の皆様に言語聴覚士や協会活動をアピールできるチャンスと考えていたのですが、今年に関してはその機会を諦めざるを得ませんでした。一刻も早く終息して、また会員の皆様の協力をいただきながら直接交流が行える広報活動も行っていければと考えております。

また、この新型コロナウイルスの影響より、研修会等もWeb開催が多くなっているようです。県士会のホームページからも、いただいた研修会の案内をタイムリーに掲載していきます。ぜひ、こまめにご確認いただければ幸いです。研修会の他にも、各種お知らせや報告など、ホームページやニューズペーパーを通じて会員の皆様へスムーズな案内に繋がっていきたいと考えております。今後も会員の皆様のご協力がますます必要となると考えておりますので、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。



鹿児島医療技術専門学校
言語聴覚療法学科 小牧 祥太郎
Tel 099-261-6161 Fax 099-262-5252

☆編集男紙☆

平素より大変お世話になっております。新型コロナウイルスの遷延により、新しい生活様式を余儀なくされている今日この頃、皆様どの様にお過ごしでしょうか。例年とは違う対応を求められた令和2年度ではございましたが、Web形式での講義や勉強会等、ご多用中にも関わらずご対応頂いた各理事・講師の先生方・関係者の皆様に感謝申し上げます。

さて、私事ではございますが、4月に第2子が産まれる予定です。こちらにもコロナの影響が色濃く出ており、上の子の時との違いに戸惑う日々を送っております。まだまだ若輩者ではございますが、良き父・良き夫となれるよう、精進して参りたいと思います。

末筆ながら、令和3年度も皆様にとって幸多き1年でありますよう、お祈り申し上げます。